

# 実盛

あぶらぶらさだめ

観ノ会 第三回公演

友枝雄人

令和2年  
8/10  
(月・祝)

昼公演 午後1時開演

(午後12時開場 / 終演午後4時頃)

夜公演 午後6時開演

(午後5時開場 / 終演午後9時頃)

セルリアンタワー能楽堂





# 実盛

さぶらふさだめ

観ノ会 第三回公演

友枝雄人

令和2年  
8/10  
(月・祝)

昼公演 午後1時開演

(午後12時開場/終演午後4時頃)

夜公演 午後6時開演

(午後5時開場/終演午後9時頃)

セルリアンタワー能楽堂

観ノ座 昼公演 [13:00 ~ 13:40] 夜公演 [18:00 ~ 18:40]

演能の前に、能「実盛」の魅力、見どころを多彩な角度から解説します。

## 【実盛と時衆】

高桑いづみ  
(東京文化財研究所特任研究員)

高橋悠介  
(慶應義塾大学斯道文庫准教授)

「実盛」の詞章には、仏道や経文に関わる文言が数多く登場します。また、ワキの遊行上人率いる時衆は、往生礼讃偈を誦しながら念仏を唱える僧伽(サンガ)として知られています。世阿弥がなぜ実盛の苦悩を癒す相手として時衆の僧を登場させたのか、上人と実盛の問答に潜むメッセージとは。能の謡や囃子の研究者高桑いづみ氏と、中世仏教等の研究者高橋悠介氏が、中世の人々の心のありように迫ります。

## 【さぶらふ人々】

櫻井陽子  
(駒澤大学文学部教授)

高橋秀樹  
(國學院大学文学部教授)

実盛は当初、源氏方の武将でしたが、最後は平家の武将として終わります。彼の人生は、源氏と平家の運命に深く関わるものでした。それは、能「実盛」において自らが語る討死の場面に、木曾義仲をはじめとする様々な人物が登場することにも表されています。実盛にとって「さぶらふ」とは何だったのか。中世文学、特に、平家物語の研究者櫻井陽子氏と中世史の研究者高橋秀樹氏が、武者の生き様を解き明かします。

## 【配役】

前シテ/老人

後シテ/実盛の豊

友枝雄人

ワキ/遊行上人

大日方寛

ワキツレ/從僧

野口能弘・野口琢弘

アイ/篠原の里人

高澤祐介

## 【囃子】

笛/粟林祐輔

小鼓/成田達志

大鼓/谷口正壽

太鼓/林雄一郎

## 【地謡】

香川靖嗣

大村定

狩野了一

金子敬一郎

内田成信

佐々木多門

友枝真也

谷友矩

## 【後見】

中村邦生

佐藤寛泰

## 【あらすじ】

作者 世阿弥

季節 仲冬(陰暦11月)

所 加賀国篠原

加賀国篠原で遊行上人が説法をしていた。多くの聴衆が集まっていたが、人々は上人が説法の前後に独り言をつぶやくのを不思議に思っていた。実は毎日のように老人がやって来て上人と会話をしていたのだが、その姿は上人以外には見えないのであった。ある日、上人が老人に名を乗るように言うと、老人は逡巡した末に、かつてこの地の合戦で木曾義仲の軍に討たれた平家方の武将、齋藤別当実盛の幽霊であると明かし、池のほとりに消えていった。その夜、上人の前に錦の直垂、黄金の太刀飾りを身にまとった実盛の幽霊が現れ、最期の戦に臨んで髪を黒く染めて出陣したこと、手塚太郎との死闘の模様を語り、後世の弔いを頼みつつ消えていった。

## 【観ノ会冊子】

「観-Ⅲ」を当日無料で配布いたします。

※「観-Ⅱ」、「観-Ⅰ」をご希望の方には各1冊500円にてお分けいたします。

※観ノ会開催にあたっては、安全にご鑑賞いただくために、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しております。お客様には、マスク着用、手指消毒、検温にご協力をお願いいたします。

表写真撮影: 鍋島徳泰

## チケット発売中

・料金(税込)  
SS席 12,000円  
S席 10,000円  
A席 8,000円  
B席 6,000円  
棧敷席 4,000円

料亭金田中席 28,000円  
(お食事と観能/昼公演11:30~、夜公演16:30~。詳細はお問い合わせください)

・チケット申し込み:  
友枝雄人事務局 03-5950-4543  
「友枝家の能」HP お問い合わせ  
<https://tomoeda-kai.com>

## セルリアンタワー能楽堂

〒150-8512  
東京都渋谷区桜丘町26番1号 B2F  
TEL: 03-3477-6412 FAX: 03-3477-0190